

第3回堺市美原区区民評議会	
開催日時	令和2年2月26日(水)午後3時00分～4時36分
開催場所	美原区役所本館5階大会議室
出席委員	堀内会長、田中副会長、江川委員、金田委員、北中委員、米谷委員、高城委員、武部委員、伯井委員、山田委員、吉村委員
事務局職員	澤田区長、石田副区長、大野課長、今田参事役、白川課長補佐、妻谷主幹、津田係長、新野副主査
関係課職員	神楽所自治推進課長
案件	1 美原区における魅力の再評価と発信について 2 新市建設計画について 3 その他
傍聴者	0人
配付資料	次第 資料1 堺市・美原町合併新市建設計画事業<美原区域> 進捗状況一覧表 資料2 堺市・美原町合併新市建設計画事業<美原区域分> の進捗状況について 資料3 新市建設計画提言骨子案

開会

《事務局が会議の成立を報告し、公開を確認》

案件1 美原区における魅力の再評価と発信について

○堀内会長 それでは、議事を進行させていただきます。皆様には円滑で活発な議事の進行に御協力をお願いいたします。

ではまず、案件1の「美原区における魅力の再評価と発信について」を始めます。前回の会議が結構前になってしまいましたので、各委員の方も記憶がおぼろげかもしれませんが、一応主な意見を紹介します。

古代から現代まで歴史遺産がのこり、つながっている美原区の歴史文化をまずは、美原区民の方、その後、美原区以外の市民の方に知っていただくことが重要である。

また、2025年は美原町生誕70周年、美原区生誕20周年になるので、この機会に全国に名前が広がり観光客が訪れるようになることも考えてどうか。

あるいは、区民自らが区の魅力を知り、まちを宣伝する必要がある。

高校生や大学生との連携を考えたらいいのではないか。

世界遺産のアピールで堺市は藤井寺市や羽曳野市と連携すると思われるが、美原区の黒姫山古墳などは登録されていないので取り残されないようにしないとイケないのではないだろうか。

美原区で生まれ育った人が住み続けられるような環境をつくることが重要である。

あるいは、美原区の公共施設をもっと有効利用し、幅広い世代が美原区に来るようなことができればよい。

歴史遺産だけではなく大型商業施設や総合防災センターの整備などを踏まえて、五感に訴える新たな魅力をつくることが大事である。

世界遺産の中間地点である黒姫山古墳をどう生かすかを考える必要があり、百舌鳥から黒姫山古墳を通り古市に至る緑道をつくることも一つの方法ではないか。

一つ一つの魅力も大事だが、点在する歴史遺産を線でつなぎながら買い物や食事もできるなど遊びに来る場合のストーリーづくりが大事ではないか、などが各委員から出された意見です。このほかにもあったかもしれませんが、一応抜粋としてこんな感じです。

ただ、今後の方向性を絞るには、長期的なものや短期的なものを分けて考えていく必要があると思います。この点に関して何か特に具体的な御意見があるようでしたらぜひお願いしたいです。

江川委員には、観光ボランティアをしておられるということで、ぜひ、御意見いただきたいと思っております。

○江川委員　長期的・短期的な話に入る前に、実は今、堺市の観光は大変なことになっていまして、バスツアーが半分ぐらいキャンセルで中国人や韓国人のお客さんはほとんど見かけない状況になっています。それから3月20日までの講演会なども、ほとんど中止ということで、今、観光イベントは全国的に自粛ムード、中止ムードが広がっていて今後どのようになるのかは分かりませんが厳しい状況です。

ところで、堺市は毎年、春と秋に文化財の特別公開があり、お寺や神社の特別な物を公開して多くの人に見ていただくイベントです。

昨年春は美原区の法雲寺が初公開されましたが、美原区は、交通アクセスが良くなく、あまり美原区の事も知らないという声が多くありました。そのような中で法雲寺といっても、お寺の名前も、また、どんなお寺かもわからない状況では、ほとんどお客さんが来ないのではないのかというのが始まる前の評判でした。

ところが実際は、昨年3月に公開すると大盛況で、同時に公開した他の13カ所の市内のお寺、仏閣などの中でも飛びぬけて1位の3日間で来客数が816名、同時に本堂でおこなわれた呈茶のおもてなしが179名来られました。また、法雲寺を出発して黒姫山古墳へ歩いて行くミニガイドツアーも行いましたが、これも74名ということで大盛況でした。

理由はいろいろあると思いますが、二つの大きな理由として日ごろ見られない宝物が3日間限定で初公開であり、しかも無料で見られるという、このキャッチフレーズがすごく効いたのが一つと、これは他のお寺ではあまり無いのですが、外部、内部の全てが写真撮影可能で、仏像も間近で写してもかまわないということがアマチュアカメラマンに評判がよく、彼らがFacebookやInstagramに写真をアップし、それを見た人が来るという良いつながりができていました。

遠くの方では岡山県からネットを見て来たという方もおられましたので、この二つが大きな要因として働いたのではないかと考えております。

このように何を見せるのか、あるいは何を見てもらいたいのか、それをどのように見せるのかという事はとても重要で、また、PRの仕方がパンフレットやチラシというよりも、ネットを活用した広報がすごく効果があり、どのように発信するかということがとても参考になった事例でした。美原はまだまだ良い観光資源がたくさんあり、ぜひこれを再評価して掘り起こし、表に出して、多くの人に見てもらい、知ってもらいたいということが大事であり、伝え方はネットを使ってうまく伝える必要がありますが、結局ネットは人が一番集まる、または、一番使うツールです。ツールであればネットにこだわらなくても駅でも、商業施設でも良いので人が一番集まる、一番目につくところに情報を発信していくことを学びました。

ぜひこの評議会の中でも、具体的になってきたらそういう面をしっかりと組み込んで環境を整え、仕組みをうまくつくれば、美原にも多くの観光客が来てもらえるだろうし、それが美原のまちづくりに貢献できるのではないのかなと感じましたので事例を紹介させていただきました。

○堀内会長　　今、江川委員から、法雲寺のイベントについてお話がありましたがここは有名ですか。

○武部委員　　有名で、ちりめん細工や、いろいろなことをやったださって、すごく親切なお寺さんです。

○堀内会長　　江川委員から法雲寺のことについて話題提供をいただき魅力の発信についてはSNSが非常に効果的なのではないかということをおっしゃっていただいたと思います。このことに関連してでも構わないですし、ちょっと派生した別のことで構わないと思いますけども、ぜひ委員の皆様方からいろいろ御意見をいただければと思います。

○高城委員　　先ほど江川委員から法雲寺さんの特別公開や武部委員からその時にちりめん細工を公開しているというお話もありました。ここは5月にちりめん細工や、野に咲く野草の

ようなお花の展示もされておりますが、読売新聞で紹介されたツツジの時期が一番多くの方が来られると思っておりました。私は宝物の特別公開があったとは知りませんでした但何かで知らされていたのですか。

○江川委員 PRは堺の広報とパンフレットだけで、毎年、興味のある方はそれらを確認して来られますが、それ以外の方は見ていないと思います。

○高城委員 法雲寺さんについては、美原の近くの人たちは知っているがあまり外に伝わるほど知らせていないので、もっとPRをしていくことが大切と思いました。

○堀内会長 ツツジは5月頃の限定ですよ。観光資源の問題は、ある時期は来てくれますが、それ以外の時期は来ないということが結構問題で、ツツジ以外の時期でもこのようにときに行けば楽しいとか、もし御存じでしたら教えていただきたいです。

○吉村委員 私は御朱印帳を集めていまして、法雲寺さんでも書いていただけるのでツツジ以外のときでもそのような方は来られると思います。毎年ツツジの時期には、少し場所をお借りして、お弁当を持ち込み10人ぐらいで仲間が集まってわいわいと話をしたりしておりますし、イベント限定ですが奥に喫茶コーナーのようなお茶が飲めたりするところもあって、本当にもっと発信すべきだと思います。私も広報は見ているつもりですが、特別公開は見落としていました。

○米谷委員 法雲寺とか観光資源はいろいろあると思いますが。最初に会長から提起があったように短期的にどうするか長期的にどう見るのかをまとめる方向で進めなければ話がまとまらない方向に行くと思います。観光面での美原区の再評価ということと言った場合、美原区にはこういうすばらしいということはどうアピールするのか、これはどこにあるのかということ、まずこれを皆さんに意見を出してもらい、それをどうアピールするのかということが一つだと思うのです。

長期的には何を取り組んでいくのかという方向でやってもらわなければ、いろいろ意見が出てきて法雲寺ばかりになるようなことになりかねないので、美原にはいろいろ良いところがあり、短期的にこういう点をアピールし長期的にはどうするかということ、を分けてやってもらったほうが良いと思いますのでよろしくお願いします。

○堀内会長 では短期的、長期的ということですがSNSではバズるという言葉があり、一気にはやる時があります。しかしその内容がはやった後に、そのまま持続する場合もあれ

ば、すぐに人気がなくなってしまうこともありますので、3月のイベントのときにはたくさん人が来られましたが、それ以降はどうなったのでしょうか。

○江川委員　法雲寺は通常非公開のお寺で檀家の方は別ですが普通の方ですと境内は回れますが本堂や各お堂の中へは入れないので、観客数とか入場者数とかは一切ないお寺です。

○堀内会長　そうすると公開のときに人が来て、その周辺のことでも知ってもらえたかどうかということが一つあるのと、あるいは法雲寺に限らず、それ以外の場所もSNS等で発信することで人を集められるのではないかという問題。さらに、そうやって来た人たちが一カ所だけでなく、もっと面として、あるいは線として、隣の羽曳野市あたりとつながり長期的に来てもらうためにどうしたらいいかという問題。多分この辺ぐらいだと思うのですがどうでしょうか。

○伯井委員　前回、短期的には世界遺産の関係もあるので黒姫山古墳にフォーカスを当てて議論を進めたほうが良いのではなかという意見もあったと思います。先日の専門部会でも、ららぽーとや黒姫山古墳や黒山西地区の範囲を歩行で移動できる回遊性を高めてはという意見もあったので、例えば黒姫山古墳で何ができるのか、どのような可能性があるのかというのを短期的には掘り下げてみる、あるいは専門部会の交通とも絡めるというのも一案かなと思いますので、少し絞らないと意見をまとめることはなかなか難しいのかなという気がいたします。

○田中委員　今、伯井委員も言われたように専門部会では、ららぽーとは1日数万人の来店者が予定されておりSNSも大事ですが、この商業施設と連携し美原の都市拠点を徒歩で移動しやすい環境を作ることが大切だという意見が出ておりました。私もこの商業施設から近くにある黒姫山古墳や少し距離がありますが法雲寺などへ、歩いて移動できる環境を作ること大切ではないかと考えております。

○山田委員　短期・長期と言いますが、会長の考えでは短期はどこまでのことを短期と思っているのか、長期というのはどのぐらいのスパンで見ているのか、ららぽーとの話題も出ていますが、三、四年、五年あたりは短期という扱いでいいわけですか。

○堀内会長　私のイメージで言いますと、先ほど江川委員が言われた、3日間の公開のように、その期間だけ人が集まるようなものが短期で、それに対して、その後も若干減るかもしれないけれども、リピーターが来てずっと続いていく。これが長期だと考えています。要す

るに単発のものや、イベントにだけやってくる人がいるのが短期と考えています。

○山田委員　わかりました。それで言いますと、美原の場合、いわゆる堺や羽曳野、藤井寺の人から見ると、その文化施設がどれだけ重要視されるかと言ったら疑問に思います。まず認知度が低いし、地元の私が言うのもなんですが歴史的価値から見てもこれといったものがない上に、駐車場設備もない。先ほど田中委員が言われたように、人が集まってくるのは民間企業の努力であり、それに伴って、長期になるかわかりませんが国道309号東西の開発による商業施設やM・Cみはらを含め黒姫山古墳までの遊歩道整備が重要と考えています。前に米谷委員もおっしゃったような整備だとか、防災センターも近くにできますから、それらを併せて整備し集客する。研修や防災でも人は集まりますし、そこから派生していくのではないかと考えています。

○金田委員　私は長期というのは、そのことを誰が行い、どういったお金の回し方で持続していくのかという仕組みの話なのかなと考えています。多分そのあたりが一番重要で、短期的に広報すればよいことはたくさん出てくると思うのですがSNSの発信にしても誰がやるのかが決まらなければ意味がありませんし、観光業としてある程度の収入があり持続できる仕組みを作り、民間で行わないと本当の観光にはならないと考えています。行政が行うことを前提に話し合っているのであれば、そのあたりは考えなくて良いのですが、どのような意識をお持ちなのか少し気になりました。

○堀内会長　ありがとうございます。江川委員は、ららぽーとができたときに、黒姫山古墳までの通路の案内であるとか、SNSでの発信であるとかは観光ボランティアにおいてできるとお考えですか。

○江川委員　ららぽーとを起点に黒姫山古墳や法雲寺、防災センターなどの周辺の町を案内することはボランティアでできます。SNSは残念ながらソフト、ハードともないので、できませんが、まちの案内役、ガイド役、それからその企画運営というのは、観光ボランティアで可能です。

○堀内会長　観光ボランティアではSNSはできないということなので、委員の中でSNSなどを御自身で積極的に使うとか、あるいは逆に、そういう情報を見ながら観光地を訪れることが多い方がいらしたら御自身の御経験などを言っていただければと思いますが。

○北中委員　私はガイドブックを利用して旅行に行くと人が多すぎて落ち着かないことがあります。先ほどららぽーとの話になっていましたが、週末などはかなり多くの人がかかること

が予想されますので、ガイドしてゆっくり歩くのは難しいのではないかと思います。このような賑やかな中心部ではなく外を回るように分散させなければ交通渋滞なども発生するので市はノウハウのある民間企業と協力して、あまり一か所に集中しないように発信する必要があるのかなと思います。

○吉村委員　私は黒姫山古墳にはただ緑があるだけで、たまに子どもがキャッチボールをしているが美原の人もなかなか行く機会がないので、短期的には例えば古墳の周りに土器や埴輪のレプリカを置き学芸員が古墳の詳しい内容を講演し、その後オリエンテーリングやスタンプラリーをするようなイベントを行っても良いのかなと思います。

長期的には世界遺産になった仁徳陵などと一緒に黒姫山古墳のスタンプなどを作って、そのスタンプを集めたら記念品がもらえるように堺市だけでなく藤井寺市や羽曳野市を巻き込んで行えばどうかと考えています。

○堀内会長　私の感想を申し上げますと、先ほどの金田委員のお話のように人材につながっていく短期的なものであるならば、地元の小学校などと連携して観光ボランティアなどを行うことができますが、百舌鳥・古市や外部とのつながりなどが必要な長期的な話になると、恐らく地域のNPOだけで行うことは難しく、より広域的な要請であるとか、企業などを巻き込まないといけない。そこに行くまでにはまず短期的な部分で、地元で何とかしなければいけないのではと思います。

○米谷委員　短期・長期にこだわってしまうので少しおかしくなるのでは、直ぐにできることと時間をかけてやるべきこと、そういう理解で論議するほうが良いのではないかと思います。それと、美原区における魅力の再評価と発信というのは何をまず目的にするのかということを引きちっと押さえておく必要があると思います。

まず1番目に区民にとってその目的は納得できるのか、それともう一つは、美原区に住んで、こういうすばらしいところがあるということを知らせる。こういうことも魅力の評価になってくるだろうと思います。以前美原区では6小学校のPTAを中心に児童が13キロメートル歩き区内の色々な施設を回ったという歴史もあり、子どもも含めて美原の魅力を見るなどの取り組みは直ぐにできる課題であり、このように少し分けて考えるべきではないかと思っています。

もう一つは長期的に見るのなら、今はやはり堺の課題というのは世界遺産ですが黒姫山古墳は置かれてしまっている。前回も話したように百舌鳥古墳群と古市古墳群のちょうど中間にあり直線距離で約10キロ近くの距離です。堺の歴史から見ると竹内街道が羽曳野、古市側それから仁徳陵側にあり、それを使ってどのように黒姫山古墳までのルートをつくるのか

ということが長期的に取り組んでいくということではないのかなと思います。

それから、先ほど副会長からありましたが、やはり歩いてめぐることができる遊歩道をつくれば住民が休みにそこを利用することにつながり、美原の魅力発信のためには大切と思います。

また先ほどららぼ一との話しがありましたが、なかなかららぼ一との組み合わせというのは難しいですが、これだけ多くの人が来るということは、美原にはこのような場所があるという、発信する場所になるだろうと思いますので、そういう捉え方に分けて考えたほうがいいのではないかと思います。

今すぐ取り組める課題、それから将来的にはこういうものをつくっていこうという論議で進めるほうがいいと思いますので、少しそのあたりで時間もかかるかもしれませんが、いろいろ考えてみたらどうかと思います。

○堀内会長　　今、米谷委員が直ぐにできることで、子どもを巻き込んだ話がありましたので、高城委員どのお考えですか。

○高城委員　　直ぐにできそうなことは、本当にたくさんあります。この美原区だけに限れば、さっきおっしゃったように、小学校は6校、中学校は3校です。例えば子どもたちは美原の歴史というものを知らない。私が黒山小学校にいた20年ほど前は社会科の先生たちが集まって作った美原の歴史というテキストがあり、それで子どもは美原の歴史を学びました。

ちょうどその前後に黒姫山古墳が発掘され、M・Cみはらが建てられ美原区以外の学校の子どもたちも見学に来て歴史を学んでいました。あんなに身近に美原の歴史を知るいい資料館があるので、みなさんが見学に行くような位置づけが大切だという気がします。

○堀内会長　　私がこの委員の会長を就任するときに「まち歩き魅力発見マップ」を区役所からいただきました。このマップはよくできていると思いますが小学生向けではありません。

この小学生版のようなものを地域の皆さんで作っていただき、これを見ながら子どもと親と一緒に歩いたりしたときのことをSNSなどで発信してもらおう。そしてそれを起爆剤に将来的には百舌鳥・古市古墳群と連携するようなことができれば良いと個人的には思っています。

○高城委員　　その「まち歩き魅力発見マップ」私や武部委員たちと10年ぐらい前に美原の色々なところを歩いて見て回り作ったものですが大人向きです。観光に来られた方のガイドブックとしても、美原を知る上でもすごく良いテキストです。

その表紙にあるのが黒姫山近くの田んぼで、美原の産業が余りないので古代米を栽培しよ

うというところから始まり、今では多くの所で美原の古代米が使われています。また、親子で田植えや稲刈りをするイベントを年に2回行い結構参加者も多くなりましたが美原区の親子があまり来ないので美原区内ではあまり知られていないようです。

○堀内会長　ありがとうございます。私の子どもは小学校6年生で、もう一緒に遊ぶような年齢でもないのですが、五、六年ぐらい前だったら、地元子どもと散歩できる場所があり、周辺マップも子ども向けの漫画とかが入っていたら重宝したろうなと思います。そのようなものを作る方向で良いのかなと思います。あと、先ほど米谷委員が言われた話で誰のためのものなのかということが重要で、私は観光というのは別に観光客のためのものではなくて、観光客がやってきた、そのときに人が来る場所なのだということを地元の人が誇りに持ち、それが地域を知るきっかけになることが一番大事だと思っています。そういう意味でも地域の大人と子どもと一緒にまち歩きできるような地図とかがあれば、それは地域のためになりますし、観光客がやってきて、子供たちが別のところに行かなくても地元で遊べる場所がある。ららぽーとに行くことになると思いますが、そのようになれば良いのかなと個人的には思います。ほか何か、御意見ありましたら。

○江川委員　子どもを対象にすることはとても大切で、今後地域に愛着を持って美原のまちをよくしようと思えば今の子供たちが行っていく、そういう若い人材をこれから育てていくということが大事なことです。先ほど学校でも昔はやっていたというフィールドワークのような、まちを歩いて自分たちで勉強する。ぜひ、復活させてほしいですし、子供たちに向けてのいろんな学びの場を増やしてできるだけ理解をしてもらおう。その取り組みは今直ぐにできるものと、中長期に考えないといけないものがありますが、できるものは、やりたいと思います。

例えばフィールドワークは来年からでも行ってもらうとか。それから先ほど会長がおっしゃった子ども向けのマップを子どもたちに作ってもらうことにより黒姫山古墳やM・C美原の、体験ガイドや模擬ガイドなどを子どもたちに行ってもらうなどいろいろできると思いますので、彼らに学んでもらうというのは非常に重要だと思います。

それから私のイメージでは、ららぽーとをうまく美原の情報発信基地にできないかと考えています。ららぽーとの中に美原情報コーナーや美原情報デスクのようなものを置いてもらい、そこから毎日、朝市の情報や古代米の情報、いろいろなお寺の情報などを発信する。土日は、ららぽーとに来た人を連れて周辺のミニガイドで回るなどの情報発信基地にできないかと思っています。

美原でこれから一番人が集まるのは、ららぽーとになると思いますので、今から仕掛けを作ってお話をしていかないとなかなか整備ができないのだと思います。

○堀内会長　多分、観光ボランティアの立場で直ぐにやっていただけることもあると思いますし、長い戦略でやっていただくことや各委員それぞれの立場でやっていただけることもあ
ると思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

○北中委員　私は、ららぽーとに入ってくる店の中で、例えばアウトドア用品を売っている
会社と黒姫山古墳の周辺や舟渡池の公園などでキャンプのイベントをするような美原にある
ものにつながることを行政ではなく、民間のノウハウで行ってもらえれば、美原の人も遠く
まで行く必要がなくなり良いという話をよく聞きます。

○武部委員　私は高齢者の方も近くに多くの散歩ができる場所があるのだから子どもと一緒に
観光感覚で散歩すれば健康にもつながりますし、とても良いと思うのですが、実際は近く
にありすぎて行かないので、何かの集まりの時に先ほどから話題に出ているマップをわたし
て皆さんに行っていただけるよう地域から盛り上げていくのが重要で結局それが広がって
いくのが良いのではないかと考えています。

○堀内会長　先ほどは子どもの話にフォーカスし過ぎましたが、高齢福祉からするとヘルス
ツーリズムといいまして、例えばこのコースを歩くとこういう起伏があるので消費カロリー
が幾らで体にいいというようなものがはやっています。このまち歩きのマップではルートは
書いてありますが距離や高低差が書いておらず、あと、車がどのぐらい通るとか、この通り
であれば車が少なく安全であるとかの情報が書いてあると子どもも歩きやすいですから、そ
のようなマップに新しく更新するとお年寄りから子どもまで楽しく使えるのではないかと
思います。

○吉村委員　何名かで集まって歩いておられるというグループがありますので、その方々に
どういうところを歩かれているかというような情報を教えてもらうのも良いのではと思
います。

○山田委員　そういうソフト面での地道な活動もいりますが、私はやはり美原の知名度を高
めないといけないという考え方で、ららぽーとや、防災センターなど黒山地区東西の開発を
含め企業努力で情報発信するものと、近くに区役所がありますので、その中に情報発信する
基地を置いてほかの地域から来た人に法雲寺さんなどを紹介する両方が必要と考えていま
す。また、M・Cみはらや黒姫山古墳に遊歩道を設置するというのは行政が歩道整備を進めて
いくことが大事なわけで、できる、できないかは別として、そうすることが地元の人がウォー

キングすることにも、美原区の発展にもつながると考えています。美原の知名度は低いですからこの機会を捉えて知名度を上げるよう発信してほしいと思っており、そのためにはやはり行政の力が必要だと思います。

○堀内会長　　ということで行政からお願いいたします。

○澤田区長　　いろいろ御議論いただき、御意見を出していただきありがとうございます。今、御指摘いただきましたように行政も当然、皆さんと一緒にやっていかなければならないと思っております。私はこの諮問の目的としての魅力の再評価は観光だけにとどまらず、美原の魅力、これは歴史文化施設だけにとどまらず、食であったり、あるいは人であったり、そういったものが全て美原の魅力になるのだろうと考えており、それを発信することによって、美原って良いところだな、来たいな、住んでみたいなと思ってもらえる。そのようなことを皆さんに御議論いただければと思っております。そのうちの題材で例えば、黒姫山古墳や周りがある古代米、あるいは人であれば、美原には府立農芸高校があり、そういったものをいかに結びつけるのか、あるいはそれを一つのストーリーにしていくことを議論していただければと考えております。

また、情報発信につきましては、ららぽーとに情報発信コーナーをつくっていただく。これもひとつ、要望もできますでしょうし、私ごとというか、美原区長としてのT w i t t e rを先日、始めまして、少しささやくだけで、100ぐらいのフォロワーができたりとかいうこともありますので、そういったことも絡めながら魅力発信の方策やコンテンツ、それからストーリーづくり、こういったことを我々も一緒にさせていただければと思っております。

○田中委員　　論点が少し変わりますが、いわゆるフレイルというのは、介護が必要な人と健康な人との間の方のことですが、フレイル予防のために堺市では「あ・し・た」という標語、キャッチフレーズをつくっており、あしたの「あ」は「あるく」、運動ですね。「し」は「しゃべる」、いろいろ人としゃべる。地域でしゃべる、いろんな会でしゃべる。「た」は「たべる」。で、先ほど、歩くという話も出ていました、高齢者の方が歩くということは、保健関係でも進めておられるので、それらとの連携も当然ありかと思えます。

○伯井委員　　こういうことを言うと堺市さんに怒られるかもしれませんが世界遺産の話で言いますと、確かに黒姫山古墳はそんなに魅力が無いかもしれませんが、仁徳天皇陵は行って見ても森があるだけです。黒姫山古墳が中まで入れる古墳で横に買い物ができる施設もあり、かつ京都から奈良の帰り道では美原北インターで降りて観光バスで止まって買い物もして、そのまま美原南インターから上がっていくということで言えば、わざわざ羽曳野や

堺のほうまで迂回しますかということも言えると思います。

今までは、りんくうのアウトレットで買っていた人が、ららぽーとで買い物するということもあり、見せ方で同じものでも全然変わるでしょうし世界遺産とららぽーとというポイントは今しかないと思っています。

この間の専門部会では今でも対策が間に合わないという話も出ていましたので、ある程度絞り急がないと無理じゃないかと思います。

○江川委員 黒姫山古墳は実は既に日本で一番の古墳で、甲冑、かぶと、よろいが24体出てきております。このような古墳は日本のどこにもなく日本で一番です。私が前から申し上げているのは、ぜひその24体のかぶとを一斉に全て一般公開してほしいと。場所は黒姫山古墳の横でも良いし、博物館でも良いですが、要は24体出た日本一の古墳ですということアピールするための大きな展示会をやっていただきたい。これはぜひ美原区さんに頑張っていていただいて、今どこに保管されているかわかりませんが交渉していただいて、何かのときに全数公開をやっていただくのが一つ。そのような、よろいかぶとが出てきたのにもかかわらず、名前に「姫」という字がつくことが珍しいので、そのようなストーリーもつくって一体誰の古墳なのかというミステリー的なことも加味してアピール、PRする時と思います。百舌鳥・古市古墳群のちょうど中間に黒姫山古墳ありみたいな。それをぜひ、何かのときに入れたいですね。

○堀内会長 再評価というので考えていたのですが、熊野古道は世界遺産に認定されてから急に観光客がふえたわけではなく、例えば中国のバスツアーが来ても森だなんて言って、歩かず帰るみたいなことが多かったようです。本当は熊野古道を1日かけて歩いてもらうのが本来のあり方ですが、なかなか伝わっていなかったようです。しかし、世界各地の巡礼をしている人たちが一定数いて、そういう人たちの視点に立つと熊野古道は魅力的で日本でああいう巡礼の旅をしてみたいと思わせるようなことを見つけていくことが再評価なのかなと思っていました。

だから古墳もぱっと見れば森なのですが、言ってしまうと、世界にあるピラミッドと意味的には同じで、そういうところを各地転々と回っている人たちにとってはすごい価値である可能性がありますので、例えばピラミッドのエジプトと提携を組んで、2国の古墳をめぐれば何かグッズがもらえる、そういう打ち出し方もできますし、もっとほかの、こういう特性の人にはこういう価値があるとか、見方があるとか、そのようなものが出てくると新しい道とか発想が生まれてくるのではないかなと考えていました。

○米谷委員 先ほどから、黒姫山古墳の問題については今の時期を逃してはいけないという

のは事実だろうと思います。以前に、黒姫山古墳の問題で博物館の副館長があそこをもとの葺石にかえてはどうかという案を持っておられたときもありました。古墳というものは、もともとはこういうものだということが見えれば評価も変わってきますし、黒姫山古墳は宮内庁の管轄ではなく文化庁の管理で、逆に世界遺産に入っていないからこそ触ることが可能という面があります。そして同時に、先ほどから出ている遊歩道として竹内街道のつなぎの面として通るという絵が描けたら健康の面から見ても良いだろうし、家族が遊びに行くこともできてとてもおもしろいと思います。

それから、M・Cみはらの周辺は河内鋳物師の大きな遺構で、日本の鋳物の発祥の地とされていますので、それらも含めて一つの大きなルートになるのではないかと。博物館もそれで造ったわけで出土品もしっかり残してガラス越しですが見えるようになっていまして、そのように一つの大きなルートとしてやっていくことが大事で、長期的な問題になるでしょうが一つの大きな柱として提案をしていかなければ動いてくれません。それ以外に法雲寺など、いろいろ出てきましたが会長が言われたように、あのマップをどのようにするのかという点も含めて美原の良いところを出していったら良いのではないかと思います。皆さんも大体そういう意見を持っておられると思いますので、そのような方向としてまとめていってはどうかと思っております。

○堀内会長　ほかにまだ委員から御意見があるかもしれませんが、とりあえず現段階ですぐできることとして、いろいろ意見を挙げていただいたと思いますが、M・Cみはらや地元の小学校、ららぽーとなどを巻き込んで短期的なイベントから長期的に広げていくことが大事かなと思います。

よろしいでしょうか。またこの件に関しては引き続きまして議論をしたいと思いますが、次の案件がありますので、そろそろ移りたいと思います。

では、案件2「新市建設計画について」を始めます。この件に関しては事務局のほうから説明をお願いいたします。

案件2 新市建設計画について

○事務局　新市建設計画は堺市と美原町との合併に際し、将来ビジョンを示すため、基本方針と計画を定め両市町の速やかな一体化と均衡ある発展に寄与するとともに、住民福祉の一層の向上を図ることを目的に平成17年度から平成26年度までの10年間の計画が進められてきましたが、その後、平成24年6月の法改正による合併特例債、起債可能期間5年間の延長を受け、平成31年度までの15年間に計画期間が延長され現在に至っております。

区民評議会では、この計画の事業について毎年度進捗状況の報告を受け審議してまいりましたが、今年度が最終年度となりますので総括を行っていただき市長へ提言していただきたいと考えております。

《事務局が資料1、資料2により事業の進捗状況を資料3により提言骨子案を説明》

○堀内会長　　ありがとうございました。資料が結構ありますので、これを一瞬で理解するのは困難かもしれませんが、何か御意見ありましたらお願いします。

○高城委員　　前に地域審議会の委員になっていたことがあり、私が一番気にかけていた北保育所が昨年度から開園し、他の事業も多くが完了しているのは本当に良かったと思っています。まだ全く未着手の、美原南運動場整備事業について現在どのような状況なのか、もう少し詳しくお話していただけたらうれしいです。

○大野課長　　買収すべき用地の選定ができておらず、以前にも御報告したまま進展がない状況です。

15年前に立てた計画ですので、現時点でこの運動場が平尾・菅生地区に必要なのかどうか、また、どのような整備が一番良いのかということを含め、地域の皆さんに問いかけている段階です。今後、区民の皆さんのニーズを踏まえ、どのように進めるかという検討を行っていきます。

○米谷委員　　今までに美原南運動場整備事業では調査費などいろいろ予算が組まれましたが30年度以外は予算の執行も行われず6年間そのままになっているのが現状です。議会の中でも地元でも何回もこの問題について話し合ってきましたが、行政が事業を進めなかったのですから、きっちり行ってほしいことを提言の中に入れることをお願いしたいと思います。

○山田委員　　この計画は美原町と堺市の合併のときの協定で事業を行うということで、少し大まかにお聞きしたいのは、合併のときの条件としてどれだけお金を使う予定で、今どの位使われているのか。そしてあとどのくらいお金が残っていて、新しい事業をどの位の期間で計画しないといけないのかを説明をしていただけたらと思います。

○澤田区長　　私も議論をつぶさに見て聞いたわけではありませんが、ここに記載されている事業は全て事前に資金、予算を用意しているということではなく、合併特例債を活用し事業を行うという堺市と美原町との約束事だと思っています。その合併特例債を活用しながら前

期・中期・後期のこの事業をそれぞれやってきて、ほぼ完了しているというところです。

ただ、事務局のほうから御説明させていただきましたように美原南運動広場だけが全く未着手になっています。この新市建設計画と合併特例債を活用できる期間が3月末で終了しますので、区民評議会において進捗を確認していただき、できていない部分につきましては堺市に対して、御提言いただくことが必要なのではないかなというところで、提言の骨子案にそのような内容を入れさせていただいております。

○山田委員 合併の特例債の活用というのはいつまでできるのですか。事業を提案することによって降りてくるというものなのですか。

○澤田区長 合併特例債の期限そのものは、この3月末で終わりです。

○山田委員 そうしましたら、合併において、美原のほうで使われるべき予算は全て消化されているのですか。

○澤田区長 事業を行うために予算を用意していたということではありません。その事業に着手する際に起債を起しそれでその財源の手当てをしていたということです。

○伯井委員 この提言書の骨子案（3）美原都市拠点の整備というところでは、都市拠点の集客力が高い云々とあって、歩行者等の移動については、より一層、安全を確保できるように、というところで、資料の地図を見ておりましたら、プロムナードが黒姫山古墳の直ぐ近くまで行っており、道路をつなぐのか、あるいは違う方法で黒姫山古墳までの歩行者の回遊性を確保するというような趣旨の提言をここにも入れておいてはいかがだと思いますがいかがでしょうか。

○事務局 今回この提言いただく内容につきましては、あくまでも新市建設計画に掲げる事業についてということになりますので、別の事業につきましては違う形で出していただいたほうが良いのではないかと思います。

現在、交通問題の専門部会でもいろいろ御議論いただいておりますが、その内容はこの区民評議会に上げていただいて、新市建設計画とは別の新たな提言という形で市長に上げていただいたほうがより明確になると考えます。

今回は計画の中で未実施など、まだできていない部分については起債という裏づけが無くなくても事業を継続する必要があるということを提言するほうが良いのではと考えこの場に出させていただきました。

○伯井委員　つまりここに加えるようなことは難しいということですね。この提言の範囲は既に決められていて、その未実施の内容についてのみ提言を行うことであればこれ以上何も言うことはありません。

○澤田区長　事務局の説明が不十分ですみません。まず、3月末までに一度この新市建設計画は終わります。そして起債も終わりますので、できていない部分は継続して行うようにとこの確認はまずしていただかなければいけないのかなと思っております。その上で、これをどうするのか、あるいは、このようなプロムナードをつくるのでしたら黒姫山古墳を回遊するような歩道を整備してもらほうが良いのではないかという議論は、今後また別途していただければと思っています。

まず今日は、この場ではできていないことの確認と、堺市に対してこの区民評議会から、御提言という形で御意見していただくこと、それをここの皆さんで御確認いただければと思っています。

○堀内会長　今年度で計画期間が終了し、区民評議会において事業の総括をして市長への提言となるということですが、今後の計画、予定について事務局から説明をお願いします。

○事務局　本日、計画期間最終年度の事業進捗状況をこの区民評議会でも報告させていただきました。骨子案につきましても、特に変更することはないようでしたので、この骨子案をもとに今後提言書を作成し、会長、副会長に内容の確認をしていただいた後、委員の皆様へ送付させていただき、それから市長に提出させていただきたいと考えておりますが、それよろしいでしょうか。

○堀内会長　では、この案件2に関してはこれで行くということをお願いします。次の案件3「その他」についてですが、先日2月6日に専門部会が開催されて田中委員が部会長に選出されました。

専門部会の状況を田中委員から御報告をお願いいたします。

案件3 その他について

○田中副会長　私から報告させていただきます。議事録はまだできておりませんが、概要を説明したいと思います。

今回の専門部会は2月6日に午前10時から11時半まで行い、委員が12名おられます

が、内11名が出席されました。

まず、堺市本庁の都市整備推進課から黒山地区、これは東西の地区の開発の概要を説明していただきました。そして、同じく本庁の道路計画課から幹線道路のネットワークによる国道309号渋滞緩和が予想されます道路計画の概要の説明を受けました。そしてその説明を受けた上で委員の方々からいろんな意見をいただいたわけですが、まず国道309号だけに頼るのではなく、いわゆる未整備の都市計画道路、美原区には2本あると思いますがこの事業を進めて東西や南北の道路網の整備を進めることの必要性。

そしてまた国道309号の交差点部分のアンダーパス化、地下を通っていくことになると思いますが、そういう意見もございました。そしてバスターミナルの有効利用を通じて、バス事業の促進を図る必要性も意見として言われました。

そしてこれは先ほど議論にも出ていましたが、美原拠点区域内の歩行移動の環境確保が大変重要だという意見がありました。そして交通渋滞については長期ですることと短期でしなければならないことを分けて、まず短期でなければならないことの意見を早急にまとめる必要があるという意見もございました。そしてもう一つは、かなり開発は進んでおりますけれども、できましたら開発事業者との話し合いの場を持ちたいという意見もございました。そして、事務局からは、事業者と意見交換ができる場を開くことができるか関係の部局と調整を行っていくというような返答をいただいております。簡単ですけれども、私の報告といたします。

○堀内会長 田中委員、ありがとうございました。では今の御報告に関して、何か御意見、御質問ありましたらお願いいたします。

○山田委員 そこまでの話は行ってないと思いますが具体的に何がどう変わるかという意見は出なかったのですか。例えば今新しく道路計画という話がありましたが、現実には二、三年すれば東西の大型商業施設ができるわけで実際の通学の問題や道路の整備などの具体的な案の話し合いはなかったのですか。

○田中副会長 具体的といいますと、国道309号のアンダーパス化や八尾富田林線などの都市計画道路の事業化がありましたが、かなり長期になると思いますので私は通学路の交通安全やバスの乗降施設を両方の商業施設敷地内に入れる検討を早く進めないといけないと考えております。あと商業施設内の駐車場など設計も進んでおり、短期にするべき内容はできるだけ早急に次回の委員会を開いて検討していきたいと思っております。

○堀内会長 ほか、御意見、御質問ありませんか。

○米谷委員　先日、区民評議会の総括が皆さんに送られてきたと思いますが、これを委員の皆さんは読んでおいてほしいと思うのです。区民評議会が何を指して行くのかということや、堺市全体の中で何が欠けているのかなど、良くまとまっていると思いますので、ぜひ読んでいただくようお願いしたいと思います。

それからもう一点、これは会長さんをお願いしたいことですが、美原区の魅力の再評価と発信については諮問事項なので答申しなければなりません。そのため、あと何回会議を開く必要があるのか計画を立てていただくことをお願いします。

専門部会でも同様に、どれぐらいの期間でどれをやらなければならないのかという話も出ており時間的な制約もあると思いますので、よろしくお願いします。

○堀内会長　今のご要望に関しましては事務局と相談させていただきます。皆さん御協力ありがとうございました。これで本日の案件は全て終了いたしましたので、事務局のほうに引き継ぎたいと思います。

○事務局　それでは以上をもちまして、令和元年度第3回堺市美原区区民評議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

(午後4時36分 閉会)